

### 【一陽来復(いちようらいふく)】

「良くない事が長く続いたあとに、良い事が回って来る」という場合によく使われる言葉で、易経に見える言葉です。

夏至が過ぎて陽気が次第に減じて行きますと、やがて霜の季節を経て堅氷の張る冬至になります。冬至になりますと、全く陽気というものがなくなってしまいますが、「陰極まれば陽生ず」で、その次には必ず陽気が回復して来るものです。これを“一陽来復”と言うのです。

季節に限らず、世の中の事というものは一旦悪い方に向かい始めますと、どんなにそれを食い止めようと努力しても悪くなるばかり、という事が多いものです。その反対に、悪い事ばかりが続いてそれが出尽すと、今度は次第に何もかもがうまく行く、というように事態が好転することが多いものです。

だから、物事がうまく行かなくて苦しい時でも、早くそこから抜け出そうとしてあれこれのがくことをせず、むしろ、早く落ちるだけ落ちれば。“一陽来復”必ず良くなる時が来るのだと信じて、じっくりとあわてずに深く思慮をめぐらすことが大切です。

さて、“陽”という字は、崖の意味の“卩”と日と彡(日光)とこの字の発音を表わす丁(チョウ)とで作られた字で、「日あたりの良い崖(南向きの斜面)」という意味の字です。中国山脈の南側を“山陽地方”と言

いますが、これが陽の本義です。

陽の反対の“陰”は、卩と雲の形の云(雲の本字)とこの字の発音を表わす今(キン)とで作られ、「日光のあたらない斜面、北向きの崖」という意味の字です。

“湯”は「日光であたためられた水」という意味で“温水”→“ゆ”を表わした字です。音は tyô→tô です。腸は、易の音チョウが“長”の意味を表わしていて、最も長い器官を表わしたものです。

“復”は、行の略形“彳”と“重なる”意味の復(重なる意味は“日”にある)とで作られていて、復がこの字の発音を示しています。意味は、「同じ道を重ねて行く」ということで“かえる”ことです。

“帰”は、自分の家に“かえる”こと。返は、反対の方向に“かえる”こと。還は、ぐる。と回って“かえる”こと。復は、同じ道を通って“かえる”ことです。同じ“かえる”でも、漢字にはいろいろありますから、意味を考えて正しく使いましょう。

“複”は、“裏地のある衣”という意味の字で、夏の単衣(ひとえ=一重)に対する複衣(あわせ=合せ)を表わした字です。単のシングルに対してダブルの意味に使われます。音は復。

“腹”は、内臓の重なっている“はら”を表わした字です。音はこれも復です。“覆”は、おおいの形の西と、着けたり取ったりする意味の復とで“おおい”を表わしました。